

千年の森便り No.228

2022.10.18

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月10日（月祝）天候 曇り時々晴れ、最後に雨

10月の活動は公開行事の秋のきのこ観察会なので、案内の作成、参加者募集などを行いながら天気予報とにらめっこの毎日でした。気象予報会社によってお天気が異なり、雨の中の観察会になるかもと心配していましたが、最後の集合写真を撮影する時にひと雨来ただけで、曇り空に時々日が差すまあまあのお天気できのこ観察会を終えることができました。ご参加いただいたみなさまには豊英島の自然ときのを楽しんでいただけたでしょうか。

遠路、豊英島まで足を運んでいただいた一般参加のみなさま、駐車場の刈り払いやテーブル製作などの準備をしていただいた会員のみなさま、ありがとうございました。

また、今回もきのこ観察会の講師として来ていただいた吹春先生ご夫妻、硬いきのこの講義をしていただいた中島さま、ありがとうございました。



参加者は、講師の吹春先生ご夫妻と一般参加者 20 名、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、久我、坂本、竹下、中田夫妻、福島、真鍋の会員 12 名、合わせて 34 名でした。（福島）

○吹春講師の解説抜粋



・「胞子の色できのこを見分ける資料（バージョンアップ編）」に基づき説明がありました。

胞子紋が白

・ベニタケの仲間はもろくて縦に裂けません。壊すと乳液が出るものと出ないものがあります。チチタケ属（ラ

クタリウス)は乳液が出ます。乳液が出ないのはベニタケ属(ルスラ)。ベニタケの仲間はいろいろな樹木と共生し森の中で大事なきのこです。ただ、名前がつかないものがほとんどです。

胞子紋が白からクリーム色

- ・ヌメリガサの仲間のアカヤマタケが採れました。ヒダが厚く蟬細工のように見えます。ほかには食べられるきのことしてサクラシメジが採れました。これは覚えておいた方がよいきのこです。
- ・キシメジの仲間ではバカマツタケが採れました。香りはマツタケの5倍とされています。千葉県では香りがあるバカマツタケと、香りが無いニセマツタケの2種類が出ます。バカマツタケは、最近になって人工栽培できたというニュースがありました。
- ・ヌメリツバタケは傘の径が20cmになるものもあり食用になります。
- ・ミネシメジは石鹸臭がありますが一応食べられるきのこです。
- ・チシオタケは傷つけると赤い汁が出ます。
- ・スギエダタケはあまりきのこが出ないスギ林に出るきのこです。
- ・テングタケの仲間ではタマゴタケが採れました。タマゴタケには黄色のものもありますがヒダが黄色いところが共通した特徴です。最近の研究では、遺伝的に異なる2グループがあることが分かってきました。
- ・コテングタケモドキは毒があると言われていますが、これまで中毒例はありません。
- ・ドクツルタケは水酸化カリウム溶液で傘が黄色に変色します。変色しないものはシロタマゴテングタケ。どちらも消化器系の症状のあと、数日後に肝臓や腎臓がスポンジ状になり死に至る怖いきのこです。

胞子紋がピンク色

- ・ウラベニホテイシメジは少し苦みがありますが食べられるきのこです。
- ・クサウラベニタケは苦みがなく、ウラベニホテイシメジによく似た毒きのこです。

胞子紋が黒～紫褐色～褐色

- ・アセタケの仲間は茅葺屋根のような傘の模様があります。
- ・フウセンタケの仲間は内被膜がクモの巣状になるのが特徴です。
- ・ニガクリタケは毒きのこで、昔はかじって苦味を味見してもらいましたが最近はそれができなくなりました。最近では小さいものと2つに分けられるようです。
- ・ハラタケは皆さんが良く耳にするアガリクス仲間です。薬に使われているのはアガリクス・ブラゼイというきのこです。

以上のような解説をしていただきました。吹春先生、ありがとうございました。(福島)

○中島さんによる硬いきのこの解説

参加者の中島さんに硬いきのこの解説をしていただきました。解説の詳細は、便りの最終ページに掲載してありますので是非ご覧ください。

また、中島さんが観察したきのこの写真付きのリストが以下のQRコード(iNaturalistというホームページです)からご覧になれます。

中島さま、多くの情報をご提供いただきありがとうございました。(福島)



https://www.inaturalist.org/observations?on=2022-10-10&place_id=any&user_id=atsushi_nakajima_cirque&verifiable=any



2022年10月10日 千年の森観察会 きのご目録

- 【ベニタケ目】チチタケ属, ベニタケ属 (複数種), コウモリタケ (CBM-FB-47161), チャウロコタケ, モミジウロコタケ
- 【ハラタケ目, 胞子淡色系】アカヤマタケ, アカヤマタケ属, サクラシメジ, バカマツタケ (CBM-FB-47159), キシメジ, ミネシメジ, キシメジ属 (複数種), スギエダタケ, ダイダイガサ, チシオタケ, ツエタケの仲間, ヌメリツバタケ, ハリガネオチバタケ, ヒメカバイロタケ, ヒメキシメジ, モリノカレバタケ属, ワサビタケ, キツネノカラカサ属, ノウタケ
- 【ハラタケ目, テングタケ科】カバイロツルタケ, コタマゴテングタケ, コテングタケモドキ, シロタマゴテングタケ (KOHで傘は黄変しない), タマゴタケ, ツルタケ, テングタケ属 (CBM-FB-47160)
- 【ハラタケ目, 胞子有色系】イッポンシメジ属, ウラベニホテイシメジ, クサウラベニタケ, ハラタケ属, コバヤシアセタケ, ニガクリタケ, ヒトヨタケの仲間, フウセンタケ属 (複数種), ヤナギマツタケ
- 【イグチ目】キヒダタケ
- 【アンズタケ目】クロラッパタケ, ヒナアンズタケ
- 【ラッパタケ目】ウスタケ, ウスタケ属 (*Turbinellus sp.*, 過去に“オニウスタケ”としていたもの), ホウキタケの仲間
- 【イボタケ目】モミジタケ, クロハリタケ属 (*Phellodon sp.*), ラシャタケ属 (*Tomentella spp.*, 複数種)
- 【スッポンタケ目】キツネノエフデ, シラタマタケ
- 【コウヤクタケ目】ケシワウロコタケ (CBM-FB-47158)
- 【タマチョレイタケ目】アシグロタケの仲間, ウチワタケ, カイガラタケ, カワラタケ, キヒモカワタケモドキ, クジラタケ, チャカイガラタケ, チリメンタケ, ツヤウチワタケ, ニクウスバタケ, ヒイロタケ, ヒモツキコメバタケ, ホウロクタケ (CBM-FB-47155), マンネンタケ属 (CBM-FB-47162), ヤケイロタケ, *Daedalea quercina?* (CBM-FB-47157)
- 【タバコウロコタケ目】シックイタケ, ダイダイタケ, ネンドタケ, ネンドタケモドキ, ハカワラタケ (広葉樹)
- 【ヒメツチグリ目】エリマキツチグリ, ヒメツチグリ属
- 【シロキクラゲ目】ハナビラニカワタケ
- 【アカキクラゲ目】ツノマタタケ
- 【子のう菌類】オオゴムタケ, カエントケ (CBM-FA-47156), クロコブタケ, ニセキンカクアカビヨウタケ, ベニチャワンタケモドキ, *Hypomyces sp.* (カワラタケ上)

※硬質菌類 (コウヤクタケ目, タマチョレイタケ目, タバコウロコタケ目等) 及び子のう菌類は中島淳志が同定し, 他は吹春他数名で同定した。「◇◇属の1種」は「◇◇属」, 属が不明な場合は「◇◇の仲間」と表記した。番号は千葉県立中央博物館の標本番号。属までの未同定種は他にも多数あったが, 鑑定会で並んだものを中心に掲載した。

吹春先生、中島さま、目録の作成ありがとうございました。(福島)

〇ウスタケを見ながら

今回の観察会で目を引いたのはモミの木の根元で見た集団発生 of ウスタケでした。傘の中心部が鮮やかで地面に咲いた花の様でした。ウスタケは餅つき of 臼に似ているのが名前の由来と年配者なら理解できますが、これからは実際の餅つきを見る機会が少なくなると思うので、臼ってなんだ？という子供が現れるかもしれません。

餅つきは地域のイベントや幼稚園の行事等で残っているので、まだ暫く安泰でしょうが、植物のハンショウツルは火の見櫓に吊り下げられた半鐘に似ていると言っても、火の見櫓も半鐘も見た事のない世代が大多数の世の中です。ミノムシの蓑も古民具資料として郷土博物館の展示ケースで見る程度です。

今回の観察会には子供達の参加が多かったので、これからは名前の由来を説明するのも難しいものが増えるのかなと考えました。



ウスタケ



枯木にはウチワタケの仲間が大発生



ハナビラニカワタケ

・ハナビラニカワタケ

何の花びらに見えるかと問われれば私は豪華なボタンと答えたいです。バラや椿には花弁にフリルが無いのでイメージに合わず除外します。

このキノコは分かりやすく素人でも図鑑があれば確実に正しい名前に辿り付けるので三●●キノコの一つという人がいます。●●は差別語の恐れがあるので伏せ字としました。

キノコを始めた頃から馴染深い種ですが、なぜかここ数年お目に掛かっていませんでした。今回は沢山出ているので、「久しぶりだね、お前元気だったかい」と言いたい気分でした。(坂本)

〇きのご観察会に参加して新たな世界を発見



きのこというと、幼少期にツチグリを素手で握りつぶし大泣きして以来、妙にトラウマとなっていました。今回は、そんな残念な過去と決別すべく勇気を振り絞って観察会に参加してみました。

吹春先生の解説では、きのこの判別のポイントや特徴を分かりやすく教えていただけたほか、きのこを採集する際には、地中にある部分を含めて全体を取ること、きのこを壊さず、蒸らさないよう紙袋に分けて入れるなど、大変参考になりました。

目が慣れていないため、自力ではほとんど見つけることができませんでしたが、参加されている皆さんのレベルが高く、「あったー！」とか「大きい！！」などの歓声が次々とあがるので、声の元にお邪魔することで色々なきのこを観察することができました。特に、キクラゲのようではないどこか華やかなハナビラニカワタケや、特

徴的な形のホウキタケ、とても鮮やかで艶やかなタマゴタケなどが印象的でした。また、バカマツタケからは、（本物の香りをご縁がないので知りませんが、）確かに即席のお吸い物と同じ香りがしました。

普段は、森の中で葉や樹皮など、上の方ばかり見ていましたが、今回のきのご観察では、普段とは違う視線で森の中を歩くことができ、新たな世界を発見した気分です。今後はモミの木を好むウスタケ、コナラを好むサクラシメジなど、特定の木と接点のあるきのこを手始めに、少しずつ勉強してみようと思います。（竹下）

〇今年も千年の森きのご観察会に参加しました。

今年もキノコ観察会に参加できてよかったです。私たちが千年の森をつくる会のきのご観察会に最初に参加したのは2009年です。2歳の双子を私たち夫婦が背負って5人の子供をつれて参加したのが初めての参加でした。その時の感動、今も忘れません。たくさんのキノコにあふれているのに驚いた後、講師の吹春先生のお話された「木とキノコ（菌類）の切ってもきれない関係」に家族で驚き、聞き入ってしまいました。木は「生きる」ことも「死んで土にかえる」ことも「キノコ（菌類）」（普段は目に見えない、土の中を縦横無尽に走る糸状の生命体）がないと出来ないというのです！！本当に驚きました。このとき私たち人間の認識を遥かに超えた「生き物たちの深いつながり」があることを知ったのでした。

それから13年（??）もたったんですね。今回も吹春先生と参加者との皆さんとの島内の観察は、楽しかったです。我が家の子供たちは今回は参加しませんでした。小学生のお子さんたちが沢山参加してくれていたのがよかったです。どんどん次世代が育ってますね。ここ数年キノコの出る数が少ない気がするのですが、子供の目は見逃しません。たくさんキノコを見つけてくれました。この量でもこれだけ見つかるのだから大豊作の時に来たら、お子さんたちはどれだけ沢山見つけてくれるでしょう。

最近キノコが少ないのは、この気候の毎年の変動でおそらくキノコもいつ顔を出して良いのかわからないのだと思います。またナラ枯れなどでコナラなどが弱っているのも影響しているのかもしれませんが、でも、いつ出るのがかわからないのがキノコの面白いところでもあります。

雨が降って、今頃豊英島には大きなコウタケが出ているかも？11月の活動日には見られるかも？と考えてみるのも楽しいです。（中田真也子）



お子さんの参加も多かった

吹春先生に質問

チャウロコタケ

紫色が美しい

○バカマツタケ探索記（千葉市 森 浩也さん）

毎年発生する場所である南側の斜面を最初に探索しましたが、昔はバカマツタケが発生していたところに、シダ植物が繁茂し、バカマツタケの発生する環境にはない状態でした。さらに奥の急斜面に所々に発生するのですが、今年も3個しか発生しておりませんでした。たまには5～6個という年もありますが、この斜面での環境ではこの程度がやっとかもしれません。

その後、尾根の頂上に上がり、反対側の北側の斜面を観察しておりましたならば、あるではないですか！急斜面であることから、リング状にはなっておりませんが、点々と10個ほど。今年も採ることができたと安心した次第です。

やはり、今年のような夏の高温では、キノコの菌糸に相当なダメージがあるのではと思いつつ、どうなることかと思いましたが、そこそこに発生していました。キノコの世界は深いですね。

しかし、ナラ枯れが増加し、ブナ科のナラ・カシ類が枯れることにより、菌根菌類のキノコが絶えてしまいそうです。これも地球温暖化の影響でしょうかね。私の楽しみであるキノコ。頑張ってください！！

○豊英島独り歩き-沢山のきのこに出会う（佐倉市 友塚新樹さん）



急斜面のバカマツタケ



色がきれい、

花びらみたい、

きのこの親、子、孫

その日、夕方、メーラーを開いたら、入っていました。坂本さんからの嬉しい案内。*すぐさまスケジュールを確認、奇跡的に空いていたので、即、応募。*（千葉菌の観察会のお知らせを見逃していたので）今年は諦めていました。房総のむらでのキノコの観察会も日程があわず、森林インストラクター会の緑を楽しむ講座もなく嬉しくなって取り出したキノコ図鑑。パラパラとめくって眺めました。

豊英島には昨年の春、以来の上陸。キノコの観察会は2020年の秋、以来の参加。*お天気が心配でそわそわ。当日の朝はドライブ途中でも小雨。でも、雨が上がってくれてウキウキ。*吹春先生のお話が終わってから急に強く降り出したのも、みんなの日頃の行いが良いからに決まっている！

◇今回はひとりで行動しました。先生についてホテイ岬の方へと道を進んだ人が多かったの。あまのじゃく。*歩きだして早々にカエントケに出会いました。近年、千年の森で勢力を伸ばしているギャング団。今日がついている??エリマキツチグリ、ウスタケ、ドクツルタケと立て続けにカメラに収めました。*気がつくと周りは、寝ているコナラたちだらけ。倒れたまま?。敢えて手をつけていないのかも。*キノコを探して見てまわっているうちに方向が分からなくなりました。もともと方向オンチ。

しばらく彷徨い、ようやく禁断の岬の方へ。*途中、崖を降りて湖面の近くを歩きました。見つけました。ノウタケ、フウセンタケの仲間、ベニチャワンタケモドキなど。でも狙っていたウラベニホテイシメジなどは見つからず。

コウタケも先にホテイ岬に向かった一団が採ってしまっているに違いない…。*ホテイ岬を回ったところで湖を見渡すと、吊り橋。木々の間から見えました。今までこの位置から吊り橋を見たことがなかったので新鮮。*結局、大物は採れなかったけれど、久しぶりの豊英島を満喫しました。

◇さて、広場に戻ると並んでいました。バカマツタケにサクラシメジ。でも、ウラベニホテイシメジは小さいのが1本。コウタケの姿は今年もなく…大物たちの退場、新興勢力の勃興。

キノコにとっての環境が変わっている証し？*2019年の台風15号による被害で土地が荒れたり、日照が良くなったり？*ナラ枯れの影響？*温暖化や気候変動の影響で秋らしい季節が短くなっているから？*ちょっとだけ歩いていて気になりました。雑草の類や低木が疎らになっているような…単にシカによる食害とか？気のせいならいいのですが。

また、来年以降も公開行事となれば、キノコの観察会に継続して参加して豊英島の変化を見ていきたいと思えます。引き続きどうぞ宜しくお願いします。

〇硬いきのこのお話も大変勉強になりました。（柏市 み・るいんさん）

ナラ枯れが進むとカエントケも増える、ということだそうですが、確かに去年よりも大きいサイズのカエントケの群生が見つかりました。調べてみると、カエントケは最強の毒キノコと言われ、少なくとも6種有毒成分を持っているとか。なぜこれまでもの毒を身に付ける必要があるのだろうか、どんな進化過程を辿ってきたのか、とても興味深い生物だと思いました。

少々カエントケで盛り上げましたが、今回の観察会で新しく勉強になったのは、中島さんによる、サルノコシカケを代表とする硬いきノコ類に関する説明でした。そのなかには、木材に付着しているながら、菌糸を土の中に伸ばしており、共生菌である可能性が大きい菌類もあるそうだ。同定が難しいと言われていますが、成功したらぜひ教えてください。



カエントケ

ハカワラタケ

ハナビラニカワタケ

カワラタケ

〇いろんなきのこの見つけたりとったりおしゃべりして楽しかった。（暁星国際流山小2年 か・しょ君）

さんかしたひととしゃべったり、きのこをみつけたり、とったりしていたら、タマゴタケをみつけて、たのしかったし、いろんなきのこことふせいきをみつけて、せんせいにおしえてもらって、たのしかった。いろんなかたちのきのこや、どくきのこがこんなにおおくみつかるとはおもわなかった。昨年よりもおおきなカエントケをみつけてびっくりしました。



〇子供達の感想を送らせていただきます。（君津市 助松絵美子さん）

子供達、とても楽しかったようです。貴重な体験が出来たこと、本当に感謝しております。

〇タマゴダケが見つけれられるといいな
あとと思って観察会に参加しました。本
物の大きなタマゴダケを見つけること
ができて、嬉しかったです。

(助松花音)

〇珍しいキノコやツチグリを見つけた
くて楽しく歩きました。沢山の人とキノ
コを見つけました。きのこの観察会
は吹春先生にも会えてとても嬉しかったです。(助松佑音)



〇きのこ大好きな息子ときのご観察会に参加して

(流山市 金川泰三さん)

キノコ大好きな息子恵一(小1)は「夢みたいに楽しか
った。またここに来たい」と言っていました。私として
は豊かな自然の中で貴重なキノコたちの姿を見ることが
できました。

加えて、落枝危険回避のためのヘルメットの貸し出し
など、子ども連れでも安心して参加できました。ありが
とうございました。



〇豊英島のきのこ観察会に参加して (木更津市 平野智隼君)

豊英島でのきのこ観察会に参加しました。たく
さんの種類のキノコが見つかりましたが、中でも
印象に残ったのはカエントケです。本で見た通り
の赤くて、炎みたいなキノコでした。「カエント
ケ注意」と書かれた看板をたまに目にしますが、
本物を見たのは初めてだったので、見られてとて
もうれしかったです。また参加したいと思ってい
ます。



〇きのこの種類の多さに圧倒されたきのご観察会。(千葉市若葉区 渡辺栄一さん)

きのご観察会に参加させていただきました千葉市若葉区在住の渡辺です。君津は、過去に何回か千葉から房総
半島の内陸部を国道410号線沿いに館山まで行く途中で通ったことがあるものの、森の中に入ったのはこれが
はじめてでした。

「ちば千年の森をつくる会」さんのきのご観察会に参加したのは、今年10月2日、千葉市泉自然公園で行わ
れた「千葉菌類談話会」の観察会に次いで二度目という初心者です。森の中、地表を見ながら歩き、きのこを発
見したときは、すごく嬉しくなります。きのこの採集が終わり、皆が採ってきたきのこが並べられたのを見て、
きのこの種類の多さに圧倒されました。吹春先生による解説を聞きながら、きのこの名前を少しは覚えようと思
うのですが、年齢相応の記憶力の悲しさ、なかなか覚えられません。しかし、先生の軽妙なお話しを興味深く聞
き楽しませていただきました。

きのこの世界の入口でまごまごしている私ですが、今回、吹春先生の『きのこの下には死体が眠る！？』とい
う本を持参してサインをいただきましたので、私にとって忘れることのできない記念すべき観察会となりました。

また、お土産にいただいた里芋、枝豆がとても美味しかったです。会の皆さまのおもてなし、本当にありがとうございました。

○初めてのきのこ観察会（市原市 池田聡さん）

はじめて「きのこ観察会」に参加させていただきました。今までも自然の中で目にすることはありましたが、「食べられるのかな・・・？」という興味だけでしたので、参加目的も「食べられるきのこの見分け方を学びたい」という食欲に駆られたものでした。

そして当日フィールドで見たタマゴタケの鮮やかさ、バカマツタケの濃厚な香りに感動させられました。他にも図鑑でしか見たことのなかったサクラシメジ、ウラベニホテイシメジ、クロラッパタケ、カエントケなど多くのきのこに出会えることができました。

一方、散策中には参加したお子さんから「先生！大きな蜘蛛の巣がある。邪魔だから取っちゃおうか～？」に対して、「大丈夫だよ。僕らがそこを避ければいだけだから～」と優しく、当たり前のように諭していました。また硬いきのこの同定時に、若い中島先生による菌類の大切な役割のお話は、私の参加目的を見透かされたようで、耳が痛い思いでした。今回参加したことで自然や生き物と向き合う際の共生の意識や姿勢もあらためて意識づけられましたし、なにより大変楽しかった観察会でした。吹春先生ご夫妻や運営スタッフの方々はこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

○カエントケの子嚢胞子（千葉市 木原正博さん）

豊英島のキノコ観察会に吹春先生の紹介で初めて参加させて頂きました。ありがとうございます。普段、千葉市中央区の雑木林などしか歩いていないので、樹種、キノコの種類の豊富さに目を見張りました。バカマツタケ、ムラサキアブラシメジモドキ、ウスタケースしぶりの出会いでした。中島さんの硬質菌解説も興味深いものでした。そうそう、許可を頂いて持ち帰ったカエントケで子嚢胞子を確認できたのもありがたいことでした。これまで採取したものはみな未成熟でしたので。



カエントケの子嚢胞子

○テーブル製作

10月3日月曜日、休憩所のテーブル製作の臨時活動日で苅米さんと鶴沢が参加しました。

苅米さんは自宅で作成した立派なテーブルを持ち込んでいました。当日は先ず材料の調達でマダケ数十本をマダケ林から運びました。10m以上の竹を3本づつ紐でにくくり、広場まで運びましたがこれがきつい重労働でした。そして途中で休みながらテーブル2台出来上がりもう1台が未完成で作業終わりました。



10日の観察会当日、苅米さんは早朝入林して、未完成テーブルの仕上げしました。（鶴沢）

○駐車場の草刈り

キノコ観察会で、一般参加者もあり、多くの車の来場が予想されたので、先に島に入り、家から持参した草刈り機で、車道と駐車場の草を刈り取りました。長い期間放置されていたので、かなり伸びていたが、利用箇所は全部刈り取り、安全に駐車出来たと思います。（久我）

○センサーカメラの動物

アナグマが3頭で行動している姿が頻りに記録されました。1頭は妊娠しているようです、お腹が大きく垂れ

下がっていました。他の2頭はその雌の子供のように見えます。2頭でじゃれあっている様子が記録（CAM3）されました。7月18日に確認されたアナグマと思われる桜の根元に掘られた穴との関係は分かっていません。（アナグマ等の動画は、ちば千年の森をつくる会のYoutubeチャンネルをご覧ください）



アナグマ



ニホンジカ



カケス



ニホンイタチ



キョン



アライグマ

ホテイ岬の先端付近は浅瀬が30m程沖の方まで続いています。ダム流量調整で水面が下がった時には干潟として露出します。ここの付近がニホンジカの上陸ポイントの一つではないかと思っています。今回この先端部にニホンジカの成獣2頭、子鹿2頭が確認できました。子鹿2頭は岸辺を一緒に走り回っていました。

カケスの夜間の姿がぼやけていますが前回からCAM2に記録されています。今回はカメラに掴まったように見えました。設置した木の周りは止まる枝もなく開けた空間となっています。LEDフラッシュに反応しているのでしょうか、気になるところです。（秋元）

設置期間：7月18日から8月21日まで

※日数は確認した日数です。同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1：吊橋着岸点付近

アナグマ	19日	昼間・夜間	ハクビシン	18日	夜間
ニホンジカ	8日	昼間・夜間	アライグマ	5日	夜間
イタチ	1日	昼間	キョン	1日	夜間
カケス	1日	昼間	不明種	2日	夜間

CAM2：禁断の岬への分岐点付近

アナグマ	8日	昼間・夜間	ハクビシン	5日	夜間
ニホンジカ	19日	昼間・夜間	キョン	7日	昼間・夜間
カケス	3日	昼間・夜間	ハシブトガラス	1日	昼間

CAM3：ホテイ岬先端付近

ニホンジカ	10日	昼間・夜間	キョン	3日	昼間・夜間
-------	-----	-------	-----	----	-------

お知らせ

〇次回活動日は11月20日（日）です

ホテイ岬の整備を含めて9月にできなかった環境整備と、危険木のマーキングと伐採作業を予定しています。多数の会員のご参加をお願いします。

活動に当たっては、感染症対策、ヤマビル・マダニ対策、危険防止のためのヘルメットの着用をお願いします。

集合は、通常どおりで9時30分に清和自然休養村管理センター（農産物直売場）です。

吹春先生に代わって硬質菌類（硬いきのこ）の解説をさせていただいた中島です。とにかく驚いたのが、豊英島はまるで硬質菌類の楽園のような場所だということで、種類も数も豊富であり、半径 20 m の調査をすれば関東の低地で見られる種をほぼ網羅できてしまうのではないかと、というほどの印象を受けました。ただ、それはおそらく今問題になっている「ナラ枯れ」による枯死木の増加と強く関係があります。そう考えると複雑な気持ちにもなりますが、硬質菌類の多くは材を腐らせて栄養にしている「木材腐朽菌」なので、材の供給が増えると、それを消費する菌類が増えることで生態系全体のバランスが取れているわけです。

木材腐朽菌は大きく「白色腐朽菌」と「褐色腐朽菌」の 2 グループに分けられます。生きている木を切ると断面は褐色（茶色）ですが、この色は自然界でも屈指の難分解性物質「リグニン」によるものです。白色腐朽菌が生えている材は白く脆くなりますが、それはそれらの菌類がリグニンを分解できるという特殊能力を持っているためです。白色腐朽菌がいなければ地球はリグニンで埋もれてしまうので、硬質菌類はその地味さや人気の無さに反して、自然界では非常に重要な役割を果たしているということです。褐色腐朽菌はリグニンをあまり分解できないので、それが生えた材は褐色のままとなります。

白色腐朽菌と褐色腐朽菌のどちらに属するかが硬質菌類の同定に有用な場合もあるので、硬質菌類の観察にあたっては、きのこだけではなくそれが生えていた材の観察も必要です。また、特定の樹種に生える硬質菌類はごく一部ですが、広葉樹と針葉樹のどちらに生えていたか、というのは大きなヒントになります。今回観察された「ハカワラタケ」は、きのこの形態だけでは「シハイタケ」との識別がなかなか難しいのですが、広葉樹に生えていたことが分かれば自信を持って同定できます。

一般的なハラタケ型のきのこの同定には「傘の裏」を見るのが重要ですが、硬質菌類の同定でも同様です。写真を撮る時には上面と下面の両方から撮らないといけません。サルノコシカケ類の傘の裏には小さな穴（孔口）が多数空いていますが、その大きさや形状を見るのが大事です。「ウチワタケ」の仲間のような肉眼で辛うじて見えるサイズのものから、今回は見られませんが「フルイタケ」のように巨大なものまで様々なバリエーションがあります。孔口の形状は「クジラタケ」のような円形に近いものから「ホウロクタケ」のように若干多角形になるもの、「チリメンタケ」のように放射状に伸びるものまで様々です。

管孔が全くなく、つるっとしているのは「ウロコタケ」の仲間、今回「チャウロコタケ」がありました。「ケシワウロコタケ」は平滑ですが疣が目立ちます。「ハカワラタケ」や「ニクウスバタケ」は細かい歯のようになっており、「チャカイガラタケ」や「カイガラタケ」は襞のようになっています。これらのきのこを傘の上面だけで識別するのは至難の業です。ですが、しっかりと観察すれば種名までたどり着けることが多く、ベニタケやアセタケの仲間のように手も足も出ない、という状況になることは稀です。

今回観察された硬質菌の中で仮に「ダエダレア・ケルキナ (*Daedalea quercina*)」と同定した菌は、もしその同定で合っていたら、日本ではほとんど知られていない種なので貴重な記録となります。褐色腐朽菌の一種で、「オーク・メイズジル (oak mazegill)」の英名の通り、ナラ類（オーク）に生えて傘の下面が迷路 (maze) 状の襞 (gill) からなることが特徴です。GBIF によると群馬県から 2 点、茨城県から 1 点の標本が記録されているので、千葉県に分布していても不自然ではないかと思われます。

今回記録された硬質菌類のほとんどは木に生える木材腐朽菌でしたが、一部地上から生えているものがありました。それが「クロハリタケの仲間」や「モミジタケ」などイボタケ目のきのこです。これらは今回採集された「バカマツタケ」や「テングタケ」、「ベニタケ」の仲間と同様に、生きた木と菌根を形成して共生する菌です。また、「カワラタケ」の一部にオレンジ色に変色しているものがありましたが、これは「ヒポミケス (*Hypomyces*)」に寄生された状態です。表面の細かい粒々の一つずつがヒポミケスの子実体に相当します。カワラタケに寄生する 2 種があり、胞子の長さを顕微鏡で見ないと同定困難です。

硬質菌類の中でも傘をつくらずに平べったい形状をしている「コウヤクタケ類」は私の「押し」菌類ですが、

残念ながら参加者の誰も採集してきませんでした。丸太や落枝をひっくり返すと必ずといっていいほど見られるありふれた菌類ですが、その同定は容易ではありません。私が現地で「ヒモツキコメバタケ」と同定したコウヤクタケも、肉眼的にはそれと酷似していたのですが、顕微鏡で胞子を見てみると表面が「疣状」で、実は別種でした（申し訳ありません）。この胞子は「トゲミノコウヤクタケ」などを含むトレキスポラ (*Trechispora*) 属に近いですが、この属にここまで子実体がサーモンピンクを帯びる種は知られていないのではないかと思います。また、今回「ラシャタケ属 (トメンテラ, *Tomentella*)」のコウヤクタケが豊英島だけで4種類も見つかりましたが、これは先ほどの「イボタケ」の仲間で、顕微鏡で見ると、子実体の形状が全く異なる「モミジタケ」と瓜二つの形態が確認されました。ラシャタケ属菌は材に生えているにもかかわらず菌根菌、という興味深い菌です。ただ、ラシャタケ属の種を同定するのは一般的な顕微鏡を使っても極めて困難で、電子顕微鏡やDNA分析（それも「クローニング」という高度な操作がほぼ必須）が必要なだけでなく、標本を作る際にも通常の乾燥ではだめで、凍結乾燥が必要だといえます。そのような難しい菌ですが、属までの同定は比較的容易で、胞子が隕石のような面白い形をしているので、ぜひ丸太をひっくり返して、それらしいものを見つけたら顕微鏡で観察してみてください。

中島淳志

=====

中島さま、硬いきのこの解説ありがとうございました。(福島)